

新潟県立長岡工業高等学校同窓会 東京支部会報

第 22 号

発行人：支部長 金井 博光

編集：会報編集委員会



母校も創立 122 周年目を迎えました。昭和 46 年当時の校舎はまだ木造建築でした。創立 120 周年には長岡祭りで記念花火を打上げました。

世代は繋がる

心が結ばれる

同窓の絆は永遠に



新潟県立長岡工業高等学校同窓会 東京支部

ご挨拶

支部長 金井 博光(S44M)



母校の同窓会には大別して3種類の組織が存在しています。学校に隣接する建物「長工会館」に拠点を置いている同窓会の本部、同窓生が数多く勤務している会社内の職域での同窓会、地域ごとに発足した同窓会があります。東京支部は地域同窓会の一つとなっております。他にも東海支部、関西支部、新潟支部等があります。

同窓会本部では「長工大賞」への対象者を選出し、毎年開催される本部の「総会・交流懇親会」行事において功績を称えております。

多くの受賞者は経験の積み重ねの中で成し遂げられた功績について表彰されておりましたが、中には現役の生徒や卒業して間もない同窓生にも与えられています。

東京支部の会員が表彰される時は長岡に招かれ、同窓会長からの表彰を受けることになります。昨年（令和5年9月）では、全体で4名の方が受賞されました。内3名が東京支部の会員となっております。他1名の方は平成31年に産業デザイン科を卒業された方で、現在も作業中の案件で表彰されております。

表彰された方や受賞内容につきましては本部のホームページ、及び東京支部のホームページに掲載されています。支部のホームページでは支部会員の受賞者を紹介させていただいております。最近受賞された方から支部独自の内容も盛り込んでおります。

長工大賞の意義は、「マスコミに掲載されることのない出来事の中にも、誇れる成果をお持ちの同窓が多くおられ、その方々を表彰することで、功績を認め称賛したい」と言う想いが中心となっております。長工大賞が発足して11年（母校創立110周年記念より発足）が経過しております。

そこで、ご相談となります。皆様ご自身を含め、周囲に功績を残されながら表にしておられない同窓がおられましたら、是非とも支部役員の耳に届けていただきたいと思います。従事されていた仕事上でのご活躍を含め、地域活動や、支援活動等で活躍されている方も長工大賞受賞の対象者となります。

ご自身で努力され達成されている方、世のため人のため、に活躍されている方を是非ともご紹介ください。支部として本部へ推薦させていただきます。東京支部のホームページを介して推薦を依頼することもできます。お知り合いの役員経由も大歓迎です。締め切り日は設けておりません。いつでもお引き受けさせていただきますので、皆様からの推薦をお待ちいたします。

支部活動に必要となる年会費は、従来を超えたご協力により収支が均衡した状態となっております。高齢化が避けられない今日ですが毎年のように退会者が継続される中、収入維持となっております。これは支部を運営しております役員にとって、心の大きな支えとなります。会費納入の減少傾向が続くと同窓会活動への新たな挑戦よりも、縮小の方向に舵を切ることになります。これが避けられていることは活動への励みとなっております。3年間、支部の活動を控えさせていただいた間に蓄積された繰越金は、「会員と役員の増強策」を含めたこれから活動資金として活用させていただきます。皆様からの年会費納入に関し、心強いご配慮をいただき誠にありがとうございます。

さて、コロナ禍で長期に渡り中断しておりました支部の「総会・懇親会」ですが、昨年（令和5年7月）は4年ぶりに開催させていただきました。待ちに待った同窓との再会に大きな歓びを感じることができました。年齢が高まるにつれ、会場まで足を運ぶことが困難な方もおられ残念な場面もありますが、参加された皆さん元気な姿を拝見し「開催を決定して良かった」と感じております。

今年（令和6年）も7月6日（土）に「総会・懇親会」を計画させていただきました。同窓会を運営している者として、一番うれしい場面は会場で皆さんとお会いできることです。会報誌「東京支部だより」の発行や、ホームページによる情報発信は、すべてが「総会・懇親会」の場で皆様にお会いできることを楽しみに、役員一丸となり活動した結果となっております。

「是非とも足を運んでいただけたら」と願いつつ、会場にてお待ち申し上げます。

長工同窓会の未来創造

同窓会本部 事務局長 三川 俊克(S50e)

日ごろから長工同窓会の事業運営に格別なご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

令和 4 年 4 月から事務局に勤務して以来、あつという間に 2 年が経ちました。

令和 4 年度は、「母校創立 120 周年記念事業」の準備業務に没頭する日々でしたが、お陰様で記念式典・交流懇親会、母校への教育機器寄贈（大型スクリーン・高精度プロジェクター、小型ロボット、CNC フライス盤）など、記念事業を無事に終了することができました。これも東京支部をはじめとした県内外の同窓会員並びに関係者の皆様からの多大なご支援・ご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

令和 5 年度は、7 月 1 日に「東京支部の総会・懇親会」が開催されてお招きをいただき、9 月 9 日に「会員総会・交流懇親会」を開催（例年は 6 月開催）させていただきました。いずれもコロナ禍の影響で令和元年度以来 4 年ぶりの開催でした。

さて、母校に目を向けてみると、自分たちの頃は木造校舎で男子生徒ばかりのパンカラな校風でしたが、現在は女子生徒が相当数を占め、校舎も新しくなってハイカラな校風に様変わりしたように感じています。また、卒業後の進路をみても、自分たちの頃は「就職 8~9 割・進学 2~1 割」でしたが、現在は「進学 6 割・就職 4 割」とのことです。

昨今の少子化による生徒数・学級数の減少と相応して、進学割合が増加（母校を最終学歴校とする者が減少）したこと、母校に対する想いや愛着心の希薄化が感じられ、これらが同窓会離れの要因のひとつとなっているのではないかと推察されます。

今後も同窓会活動を継続していくためには、卒業生の同窓会に対する想いや愛着心の醸成が必須と考えますので、忌憚のないアドバイスを頂戴できたらありがとうございます。これまで諸先輩方が築き上げてこられた母校の伝統や産業界での活躍が現在も卒業生の進路（就職先）の礎となっています。優秀な人材（卒業生）が社会に出て大いに活躍してもらえるように、産業界とのつなぎ役や卒業生との橋渡し役が我等長工同窓会の大きな使命のひとつと考えています。

引き続き、相変わらぬご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



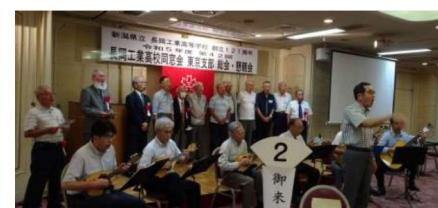
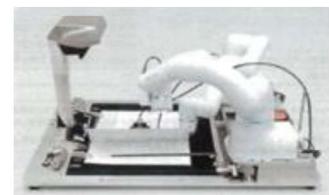
令和 5 年度(2023 年) 総会・懇親会報告

総会・懇親会担当統括理事 宮田 隆(S32E)

久しく中止を余儀なくされていた総会・懇親会は満を持して令和 5 年 7 月 1 日オーラムにて開催されました。同窓生 64 名、来賓 5 名のご参加をいただきました。母校より長井学校長、同窓会本部より山下会長、三川事務局長、若波会の藤下会長、歌手の舞さくらさんです。尚、恒例となっている相互参加の村松高校の同窓の皆さんには今回不参加でした。

第 1 部の総会は、マンドリン同好会の伴奏の校歌斎唱で開会、来賓のご挨拶の後に活動状況報告、会計監査報告、役員改選などが計られ、続いて同窓会本部の提供により、母校 120 周年記念の大花火動画が上映されました。動画は令和 4 年の 8 月 3 日の長岡花火大会で同窓会がコラボで提供した超大型スーパー・ベスピアスで、しばし故郷の夜空に思いを馳せました。続いてマンドリン同好会による演奏が行われ、しばし聞き惚れました。

そしていよいよ第 2 部懇親会です。樋口昭顧問 (S29E) の乾杯に始まり各テーブルでは近況報告、



在校当時の思い出、在職中の苦労話、世界情勢など話は尽きません。程なくアトラクションとして舞さくらさんによる演歌、そしておなじみの若波会の皆さんによる両津甚句、相川音頭など懐かしい歌と踊りが続き、若波会先導で、恒例の佐渡おけさの輪踊りが復活して大いに盛り上りました。終宴の時刻が迫る中、コーラス部の主導で勝利の歌を合唱し、令和6年の再会を約し会場を後にしました。

今回は、3年のブランクのために参加者の減少が危惧されましたが、多数の申込をいただき同窓生諸兄の期待の大きさを知らされ、安堵の胸をなで下ろしました。総会・懇親会の中止は3年にも及び、この間の状況は「東京支部だより」に縷々書いております。令和2年7月予定の総会・懇親会は、新型コロナウイルス感染者の増加が2月頃から顕著になり、対策も限られることから、ついに中止と決定されました。4月7日に緊急事態宣言発出、令和3年1月に又々、緊急事態宣言発出、延長、再延長となり、令和3年7月に予定の総会・懇親会も、実施断念となりました。東京オリンピックも1年延長の上に、無観客開催となったことは残念な記憶となっています。令和4年7月に予定の総会・懇親会は状況の改善はあるものの実施は時期尚早との判断で残念ながら中止と決定されました。

総会・懇親会は折角お集まりいただく会員の皆様が楽しくお過ごしいただくために会食や、密で会話が行えることが重要かつ、安心して会場にお出でいただける必要があります。何気ない日常がこんなに脆弱いとは思ってもいなかったことです。3回連続での休止で、これ以上休止が続く事態はいかにしても避けたいとの思いで、役員一同が努力し、実施に至った次第です。



特集記事 長工大賞と私

「長工大賞」をいただいて

松永 巍 (S20M)

期せずして「長工大賞」をいただき感謝している。数々の業績はその時々の与えられた業務を遂行しただけのことである。抑々技術には与えられたデータにより、人・金・物を要領良く活用して製品を作る製造と将来の見えない物を予想して、世にない物を創造する開発とに区分される。日本も且つては先駆者として新製品を開発した時代もあったが過去数十年は量的拡大に支えられ、安価な物を求める方向に走り、開発が疎かになったため今や三流国に成り下がった。

これからの技術はスケールの大きい、先を夢見て奇想天な発想ができるようになって貰いたい。たとえば「砂漠に雨を」「異常気象の改変」「空飛ぶ車」「旅客ロケット」「電池の超小型化」「瀬戸内海と日本海の開通」「マレー半島を貫く海路」等どれも個人や一国で出来る物ではなく、地球規模で進めなければならないが、今何の国のリーダーも自国は愚か、自分の利害だけしか考えてないような者ばかりで情けない気がする。国境を超えて、民族や宗教の壁を取り払って全世界が地球の幸福を考えるようにならないものだろうか。

自分は歳を取り過ぎた。若いものが集まってこのような問題を議論することから始めてはどうであろうか？千里の道も一步からと言うが、まごまごして居る中に地球が亡びる方が早いかも知れない。時間がない！頑張れ人類の若者よ！地球の運命は君達に掛かっている!!

不運と幸運 —— 回想 ——

井上 靖秋(S39e)

長工卒業後、旧東京三洋電機に就職、トランジスタ回路技術開発が社会人のスタートだった。趣味でマンドリン演奏活動も始め、その道の第一人者に師事した。演奏家を夢見てマンドリン独奏コンクールに挑んだが、本番で実力を発揮できず予選落ちした。全く想定外の不運であった。仮にここで演奏家への道を歩んでいたら、以下の思いも寄らない幸運の連鎖は起こり得なかつた。



それ以降は本職に専念した、集積回路開発関連で社長賞など多数受賞、高卒では希なことだ。転

機の始まりは社外表彰「日本科学技術連盟石川賞」受賞であった。学会発表の機会も得て、米国ラスベガスで開催された国際会議の特別講演で「大規模回路方程式の大域的求解法」に関する研究成果を発表、ベル研究所など欧米の著名研究機関に衝撃を与えた(註)。この成果により早稲田大学から博士(工学)学位を授与された。さらに、科学技術庁長官賞(科学技術功労者表彰)などを受賞。後年、早稲田大学大学院教授(博士研究指導資格)就任、研究室から50余名の修士と博士が輩出した。

長工大賞を挙げて、往日の回想に耽ってしまった。誰でも努力すれば等しく相応の運を摑む機会は与えられるのだが、実際に幸運を摑みとれるのは稀少だ。不運とそれ以降の幸運の連鎖、不運で幸いしたのかどうか——、今でも結論は出せない。余生はマンドリン演奏のボランティアで忙しい。来世は演奏家なのだろうか。

(註) 山村、「理論が実用になるまで」、インターネットで検索閲覧可能。

※写真は坂東太郎刀水橋



「令和5年度（2023年）母校同窓会総会で受賞した長工大賞」

闔口 幸治(S43M)

昭和43年(1968年)に母校機械科を卒業し、半導体を専門の日立製作所武蔵工場に入社しました。ここで半導体の設計に近い「オトマスク」という超高精細写真技術を担当いたしました。その後、新製品の開発管理と設計サポートなどをやってまいりました。半導体の世界では世界一から三菱・NECとの3社の合併その後、経営破綻から再建までの波乱万丈の経験をいたしました。またPMPというUSAの国際認証資格を取得し、全社のPM(Project Management)の全責任を負ってまいりました。



こういった経験からビジネスエコシステムの構築の必要性を非常に強く感じて、仕事を並行して69歳の時、大学院で国際経営戦略を学び経営学修士を首席で、73歳で博士論文を執筆し博士号を取得いたしました。さらに、これと並行して学会活動を続けてまいりました。仕事をやりながらの論文執筆は大変な作業でありました。

こういったことを重要な節目を通して母校の陸上部のインターハイ出場の恩師である吉川先生に報告してきました。今回吉川先生から推挙があり、「長工大賞」の受賞に至りました。73歳の博士号取得ということでこれからも仕事も続け、「人生100年時代」のロールモデルの休現を目指して努力してまいります。



特別寄稿

長岡まつり大花火大会

藤井 芳(S45C)

毎年8月2日3日に開催される「長岡まつり大花火大会」は日本一である！と言つても、今や否定する人はほとんどいないでしょう。ここまでたどり着くには色々なことがあります。私が長岡まつり協議会実行委員長に就任したのは2001年5月でし



『昇り分花 10号五重芯変化菊』
製作：野村花火工業（社長：野村陽一氏）
撮影：入澤稔夫氏

長岡まつり大花火大会と言えば、正三尺玉、長生橋・大手大橋のナイアガラ花火、米百俵花火（尺玉100連発）、ワイドスター MAIN、ミラクルスターMAINに加えて近年人気のミュージックワイドスターMAINの震災復興祈願花火フェニックス、天地人花火、花火この空の花、花火故郷はひとつが挙げられるでしょうか。特にミュージックワイドスターMAINは、全国的に大変な人気とな

っています。

先ずは、復興祈願花火フェニックスです。この花火の原点は2003年8月2日3日に長岡で開催された全国花火サミット（土浦や大曲など国内の有名な花火大会を運営する11団体で組織された）での各団体からの長岡まつり大花火大会への感想でした。「大型の花火は多かったが単純でつまらない」「同じような花火ばかり上っている」など辛辣な意見のオンパレード。私ももちろんですが、森民夫市長（当時の長岡市長）が顔色を変えるほど立腹されました。それを受け市長から全国の花火大会を見て来るようにと指示され、1年かけて回ってきました。その結果を2004年9月に「音楽付きのワイドスター MAIN の人気が高いこと、長岡の花火打上げ場所は他に類を見ないほど恵まれていること」などを市長に伝えました。その結果、長生橋から大手大橋を越えて長岡大橋手前までの1kmをはるかに凌ぐ超大型音楽ワイドスター MAIN の打上げを提案し賛同をもらいました。2006年の長岡市制100周年の記念花火として打上げるべく準備に入りました。その矢先にあの中越地震に見舞われたのです。地震後の2005年1月に市長に呼ばれ「今年の長岡まつりは実施するから、そのつもりでやってくれ」と檄が飛び、それに返して「それでは市長、昨年秋に市制100周年の記念花火として打上げる予定の超大型音楽ワイドスター MAIN を震災復興祈願花火として打上げたらどうでしょう。名前は長岡市の市章に因んでフェニックスでどうですか?」と申し出て決定しました。これが打上げまでの経緯です。担当花火師は、新潟県内の3社です。

天地人花火は、2007年11月の市長選挙に於いて森市長が「天地人という花火を打上げます！」と公言したために、私を中心とした関係者が奔走し実現にこぎつけました。花火師は、当初山梨県のマルゴーに依頼して大反響を収めました。翌年からは日本一と名高い茨城県の野村花火工業に打上げていただき、これまた素晴らしい花火で国内花火ファンの心をしっかりと掴んでいます。

現在は、「天地人花火」を野村花火工業が「花火この空の花」「花火故郷はひとつ」をマルゴーが担当しています。

このように長岡まつり大花火大会は、県内業者4社、県外業者2社によって打上げられてからお互いの花火師が切磋琢磨し、特に県外有名花火師の参加により格段にレベルがアップしました。

これらの課題は、いかにマンネリ化せず2003年の花火サミットで指摘されたような花火大会にならない努力を続けることが大切だと思います。私の後を受けた関係者の更なる奮起を期待しています。

私と陶芸 ~創造する喜び~

陶芸作家 金井 伸弥

郊外に住む昭和の子供たち、とりわけ男の子の多くは遊び疲れて帰宅すると「また泥だらけじゃない?! 外で体を洗ってから家にはいりなさい!」と、叱りながらも微笑ましげな母親の声を聴き育ったのではないだろうか。私もそんなどこにでもいる決しておとなしいとは言えない子供だった。特に2歳年上の兄とはよくケンカもしたが、遊び方の大師匠と言っていいだろう。



他の子供たちとの違いと言えば、「つくる」ということにひときわ執着したことだろう。セロテープで新聞紙をぐるぐる巻きにして恐竜や乗り物を作ったり、母親が習っていた紙粘土細工のおこぼれをもらい喜々として虫造りに没頭したり・・・。

そんな中、家族旅行で行った益子の陶器市。8歳になった私と兄は陶芸体験教室に入れられた。モノ作りが大好きな我が子に親心でそうしてくれたのか、取っ組み合いのケンカをされると危なっかしくてゆっくり買い物もおぼつかないと考えたのか・・・今となってはこの時の体験が原点であることは間違いない、きっと前者であると思うことにしていて。とにもかくにもそれ以来陶芸熱が旺盛となり、バブル期の宅地造成地に出かけ、掘り出された粘土収集にいそしみ、さすがに焼くことはできなかつたが私の創作活動の好材料となつていった。

そんなこんなで、高校も「陶芸」の授業がある学校を見つけ出し授業だけでは物足りず「陶芸部」に入部。顧問の陶芸家の先生に入部直後に直談判「陶芸家になるためにこの学校にやってきました。そのつもりでご指導よろしくお願ひします！」卒業して30年がたった今でも、「後にも先にもおまえ

のようなことを言ってきた生徒はいない」と良くその師匠には言われる。

卒業後「せともの」の街、愛知県瀬戸市での9年間の修行を終え、多くの人に助けられながら千葉県野田市で独立を果たすことができた。進路決定も事後報告。独立してからも思うような活動を応援してくれた両親や家族には最大限の感謝である。

展覧会活動の中では、内閣総理大臣賞や大賞などを受賞することで評価を受ける喜びとプレッシャーを感じつつ作品づくりの糧とし、多くの人に「陶芸」の楽しさを見る・使う・作ることを通じ伝えていきたい。そして一生を終えるその時まで私は「陶芸作家」であり続けたいと思っている。私の手から生まれた作品は、私の生きた証として何十年、何百年と生きていくのだから・・・。

※金井伸弥氏は長工同窓会東京支部長のご子息です。



中学生からフルートを手にして早25年

幟建 柳合（幟建 友里：のぼりたてゆり）

長工同窓会東京支部の皆様、初めまして。幟建 柳合（幟建 友里）と申します。この度、知合いの野崎さまからのお声掛けで特別寄稿させていただくことになりました。



中学生からフルートを手にして早25年。演奏する時のモットーはEnjoy Music！これはそのままの意味も含まれますが、私自身、基本的根暗なキャラクターなので、音楽生活もポジティブに考えられることを大切にしています。

中学、高校時代は吹奏楽部で毎日朝から時には終電まで練習していました。当時45人ほどのメンバーとともに練習はもちろんですが、病弱だった私をたくましく育てていただいたのもこの頃です。ザ・青春！ザ・スポーツ！という毎日。とても濃い6年間に感じました。中高の先生（吉里先生、川口先生）のおかげで武蔵野音楽大学を受けると決め、大学受験の実技では緊張のあまり恐ろしいテンポでエチュードを吹いたことを今でも覚えています。

大学時代は毎日の部活の世界とは違いフルートだけで1学年30人ほどいるようなところでした。黙々と練習し、コンクールで結果を残さないと卒業後はフルートは続けられないと思い込み、授業も行かず練習部屋に引きこもっていました“笑”。プラスバンドの講師やコンクール、海外の講習会など、学生時代は過ごしながらフルートばかり考えていたのでかなり、偏った生活スタイルだったと思います。フランス留学を諦めて、しばらくフルートから離れた時もありました。

今、私が感じる世界はたくさんの情報や、毎日の進化がめまぐるしく、まるでAIに洗脳された人々。その波に乗らないと暮らしていく感じの世の中で「自分らしく生きられればいい」とは。楽器を手に取りロングトーンをしながら今日の心や体の状態を感じながら練習しています。

「音楽」とは人生って、カッコいいフレーズで言いたいけど、不安症の私は時々このままフルートを吹いていくことを選んでいいのだろうかと漠然と考える瞬間もあります。「もがく」は音楽だけではなく、どの世界で活動している人も感じることでしょう。世界の戦争問題、環境問題。日本に生まれて毎日、平和に過ごせている。自分の恵まれた環境を再度認識できます。毎日に感謝すること。当たり前のことを毎日続けることがなにより大切だと思います。

私は0 or 100 タイプの人間で、10 or 30 のマインドの練習をしています。たとえば毎日のルーチンに英会話のワンフレーズを入れたり、本を読んだり、通勤途中に好きな音楽をリピートしてみたり。

“音楽家と言っているのに実際に音楽のジャンルも今、はやっている曲も知らないことに気付く”。ここに答えを見えだすならば、自らが答えを見つけるための判断をしなければならないし、現場に足を運び、自分の目でその場を感じる勇気も必要だと感じます。

ヒントをくれる人の言葉に目を向け、少しづつ自分でパートを積み立てて答えを見つけていく。フルートと向き合って、ハッとすることが見つかるとまた嬉しい。人には心があるように音楽も最後は心に響く。うまかった！素晴らしいと感じてもらうためにいつまでも成長できる人でありたいです。今後、支部総会・懇親会の場などで皆様の前で演奏活動させていただければ光栄です。

皆様のご健康とますますの支部のご発展を祈っております。

【Profile】

轍建友里 フルート奏者

武蔵野音楽大学フルート専攻科首席卒業

東京都内を中心にソロやアンサンブルで演奏活動を積極的に展開中

武蔵野新人演奏会

第35回フルートデビューリサイタル出演

第16回フルートコンベンション In 高松 アンサンブルの部金賞（1位）受賞

第2回チェンマイ・ヒナステラ国際音楽祭 コンクール Honorable Mention 受賞

その他国際コンクール多数受賞

【オリジナルCD album】

～Flute と Piano のための～suite (組曲)

1. March

2. Action

3. Waltz

4. Judge

5. Inspiration

**新役員紹介****電子科実習の思い出**

総会・懇親会担当理事 速水 均(S48e)

このたび、長工同窓会東京支部運営のお手伝いをすることになりました。先輩役員諸氏のご指導を仰ぎながら、微力ですが東京支部と母校の発展にお役に立てればと思っています。

私は長工卒業後、公衆電話機メーカーへの入社と同時に、大学の理工学部（夜間部）に入学し、4年間、二足の草鞋を履きつつ、会社では公衆電話機や情報機器のハードウェア開発に従事しました。27歳の時、構内交換機(PBX)に興味が沸き、PBX を製造販売する中堅通信機メーカーに転職しました。25年ほど、PBXを中心とした通信機器の方式・基本設計とソフトウェア開発に携わりました。

52歳になった時、思い立って会社を卒業させてもらい、独立しました。その後、主にソフトウェア開発の受託を行い、現在に至っています。50年近くを技術者として歩めたのは、上司や同僚及び客先関係者に恵まれたことや母校で受けた教育のおかげと思っています。当時の母校電子科教育で印象に残っていることが二つあり、以下に紹介します。今、思い返しても良い環境でした。

●電子科実習レポート

実験結果が予測範囲でも、範囲外でも吟味を行い、なぜそうなったかを考察に書け。

●日立製ミニコン HITAC-10 プログラミング実習

コンピュータの基本原理の授業やFORTRAN プログラミング実習は本当にワクワクしました。

3年生の時、万年カレンダー印刷アプリを作りたくなって、ある日の放課後一人夢中でプログラミング。なんとかその日のうちに完成し、万歳！

結局、長工時代の影響をもろに受けた形で、仕事は IT 分野の開発一筋でした。もうしばらく仕事した後、リタイアとなります。リタイア後は、自作 DC アンプのお守りをしながら、1960～1990 年代の ROCK のレコードや CD を聴きまくり、冬はスキーをやろうとひそかに決意しています。



自作真空管アンプ[DCプリ+DCメイン]



同好会活動報告

LMC 登山同好会 令和 5 年活動実績

幹事 星 富夫(S36E)

コロナ禍の拘束も解け、令和5年は活発に活動しました。1月19日景信山を登り、富士山を眺め、明王峠から相模湖駅下山して、新宿駅西口郵便局近くの龍馬はなの舞にて新年会、8名参加。3月8、9日奥日光アストリアホテル起点に雪上歩き、3名参加。



3月26日上野観桜会を県人会館にて懇親、7名参加。8月26~29日尾瀬ヶ原縦断の無理ない散策、奥只見湖乗船、銀山平温泉泊り、4名参加。10月4日LMC樋口会長米寿祝い精進湖パノラマ台登山、9名参加。10月5日青木ヶ原散策、6名参加。12月20、21日赤城山の足柄山、陣笠山、薬師岳、野坂峠の陽の当たる散策、湖畔の青木旅館泊り、忘年会で賑やかに盛り上がる、8名参加。

会員が高齢化しているため、無理しない歩きを楽しんでおります。歩ける方は是非参加してください。連絡先 E-mail : hoshie36@dune.ocn.ne.jp

ジョギング同好会

幹事 成田 修(S44M)

2019年末のコロナの流行以降、マラソン大会も中止となる大会が続出し、それまで毎年10月に秋季の定例参加していた荒川河川敷を走るタートルマラソン大会も中止や開催時期の変更となっていました。新しく参加できるマラソン大会を選定中でしたが、今回初めて11月19日(日)に開催されたよこすかシーサイドマラソン大会に試しに参加してみました。

京浜急行・横須賀中央駅近くの三笠公園近くからスタートして折り返す10kmとハーフの種目がある大会であり、過去から回を重ねて48回目となる大会です。当日は競技参加が成田のみでしたが、応援参加に片桐様(S31W)、永井様(S44M)、原様(S46M)から応援に駆けつけていただきました。

当日は天気も快晴となり、絶好のマラソン日和となりました。コースは三笠公園近くをスタートとして海岸通りを観音崎方向に走って折り返すコースであり、平坦で走り易いコースでした。結果も久々に1時間以内(59分39秒)で完走することができました。

この大会は5kmの部がないのが少し難点ですが、来年の秋季大会までに適当な大会が見つからない場合はこの大会を秋季定例大会として

打上げ会をやれそうな店はたくさんあります。大会後は横須賀中央駅近くの大衆酒場で打上げ会を行い、その後の二次会ではカラオケで楽しみました。応援参加のお三方には遠いところご参加いただき、誠にありがとうございました。



ゴルフ同好会<令和5年度の活動報告>

幹事 相澤 功(S38W)

★第21回春の同好会ゴルフコンペ 4月27日(木) 東京湾カントリークラブ

参加 10 名 優勝 山川昭男 (S33E) 2 位 野澤勇 (S33M) 3 位 吉藍健司 (S34M)

コロナ禍のため 3 年振りの開催でした。前日は終日雨模様でしたが当日は朝から好天のゴルフコンペに東まれ久し振りのコンペで再会を喜び盛り上がり楽しい1日でした。

★第22回秋の同好会ゴルフコンペ 10月12日(木) 東京湾カントリークラブ

参加 13 名 優勝 丸山清司 (S44M) 2 位 相澤功 (S38W) 3 位 永井利矢 (S44M)

記録的な猛暑、残暑から一段落して当日は秋の快晴に恵まれて最高のゴルフ日和でした。

今回は長岡本部の同窓会 OB 会ゴルフ会にも参加を働き掛けましたところ、本部からご多忙中にもかかわらず長岡本部ゴルフ会会長を含む 3 名の参加ご協力をいただきました。過去 22 回コンペの長い歴史の中での初めての交流戦でした。今後更なる発展に繋がればと期待しています。

成績発表パーティーでも本部会員、東京支部会員ともに楽しい会話で締め括りができたこと、大変有意義な 1 日でした。



会員だより

随想

顧問 横口 昭(S29E)



第 22 号「東京支部だより」の色彩発刊は素晴らしいことである。発刊当時は継続発刊の是非の議論があった。経過とともに色彩発行も議論されたが、体裁より内容の充実を期する等で白黒の発行であった。色彩発刊は時代とともに、多様化する価値観の創造であると思う。

世界人民共通の重要課題は、地球沸騰化時代と言われる温暖化に伴う地球レベルの気象である。以前にも憂いを記したが、深刻な状態が激増の譲許にあり、再び憂いは募る。氷河融解、海面水位の上昇、積雪、融雪水減少等の自然保水能力の低下が報告されている。降水に関しては、豪雨、豪雪、時間的降水の記録が驚異的に更新され、やがて干ばつ、洪水による気候避難民が出て来る。

主なる原因是、二酸化炭素(CO₂)の排出である。脱炭素の時代は全世界が心を一つにして立ち向かわねばならない時に、国家間、宗教間、民族等の対立がますます激化していることは、人間の愚かさを感じる。地球には国境はあるが天には国境はない。心を広く持て。

脱炭素の指導、強制は「気候変動枠組条約」(COP)しかないのか。国連で専門機関を作り、世界的に強制指導を望む。COP に参加している国、地域は 197 であるが、それぞれ自国の利益を優先し、その実行性は期待できない。

温暖化防止のカーボンニュートラルの実現目標は、CO₂ 排出量の多い中国（世界全体の約 30%）が 2060 年、米国（同約 15%）が 2050 年、日本（同約 3%）は 2050 年である。幾多の困難を乗り越えて早期実現を望む。

我が国では脱炭素は当然のこと、産学官共同で排出炭素の処理技術の開発、核エネルギーのリスク対応、新エネルギーの開発が急務である。ゲリラ豪雨による甚大災害の防止のために流域の森林管理、水田等の保水能力の拡大、精度の高い降雨予測による治水、利水ダムの総合的管理運営、広域的な水運用の実現などを望む。極論：九州の水を青森へ。「日本雨水資源化システム学会員」として心が馳せる。

コロナ終息後、AI 実用期に入った現在、多くの知恵が期待されると同時に偽りの情報も拡散する。「AI は正しい」と思う危うさ。「AI を作る人」「AI を使う人」「AI に使われる人」「AI を使えない人」、人間の賢さが問われる。AI から得た情報を使用した結果は、すべてが自己責任である。

東電福島原発の「処理水」が海へ放出される。この放出水は海水中トリチウム濃度 22 ベクレル以下であり、放出停止は 700 ベクレル（世界基準）を大幅に下回っているにもかかわらず、中国は「日本は全世界に核汚染のリスクを転嫁した」と批判している。これがいまだに中国の国民性である。戦時中の「オイッ、支那人」に思いをする。・・・三つ子の魂百まで。

時代が変われども尊い日本の伝統文化、道徳、武士道の厳守、伝承を望む。社会構造の改革と共に同窓会の目的の多様化が強いられるが、120 余年の伝統ある「母校の教育方針の支援」は継承しなければならない。

ここに東京支部の発展を願い、母校、本部のますますのご隆盛をご祈念申し上げます。
長工健児此処に在り。国の栄をいざ図れ。

お気に入りの曲の中でも「田園」や「第九」を聞く度に、かつてウィーン郊外のハイリゲンシュタットを訪れ、ベートーヴェンが暮らした「遺書の家」でベートーヴェンのピアノに触れ、ホイリゲ「マイヤー」でワインを飲んだことを思い出し、ベートーヴェンを身近に感じることができます。ベートーヴェンはボンに生まれましたが、音楽家としての半生のほとんどをウィーンで過ごしています。かつて温泉保養地だったこの地域で、聴覚を失いつつあるベートーヴェンが療養のために住んでいたアパートが「遺書の家」として現在博物館になっています。作曲家として、どんどん聞こえなくなっていく耳に絶望し、死を考えたベートーヴェンが遺書を書いたことから「遺書の家」と呼ばれています。博物館の周りはブドウ畠が広がる田園風景があり、近くにベートーヴェンの散歩道「ベートーヴェンガング」があります。

天気の良い日は毎日、ベートーヴェンはこの小路を散歩して、交響曲第六番「田園」の構想を練りました。散歩道の途中には、ベートーヴェンの胸像があります。

そして、ホイリゲ「マイヤー」で「第九」を作曲したと言われています。ホイリゲとはワインの新酒を意味すると同時に「新酒を飲ませてくれるワイン造り酒屋」を意味する言葉とのこと。この「マイヤー」でベートーヴェンも飲んだ（？）美味しいワインをいただきました。ベートーヴェンに乾杯！



遺書の家



ベートーヴェンギャング



エイリゲ「マイヤー」



对外交流

価値観の多様化

東京新潟県人会 常務理事 桶口 昭(S29E)

世界 2 か所で戦闘状態等、緊張が続く辰歳となりました。先ずはウクライナに平和の前に「勝利」であること。

コロナ終息後急速に社会構造の変革が進み、AI全盛の時代となりました。「誠」「正義」「人間性」が問われる時代です。過去の常識が非常識になることもあります。価値観が多様化します。



戦後「豊かさ」に価値観を求め現代は「楽しさ」に価値観を求める時代です。価値観は人の「悦=よろこび」「幸」です。「喜=よろこび」は他から与えられる「よろこび」です。たとえば物を貰った、褒められたなど。「悦」は自ら求める作る「よろこび」です。多様化する価値観の創造は異文化吸収です。この道一筋の美学もあるが、別世界を知ることに実益があると思う。

長工東京支部は、組織と個人で新潟県人会に参加いたし価値観の創造に努めております。新潟県人会の主なる行事は新年祝賀会、納涼大会、芸能大会、作品展、文化講演会などであり、長工東京支部は故郷の伝統芸能「若波会」と「若長会」を結成し親交を深めるなど、各種各界と交流いたし見聞を広めると共に、長工東京支部をPRいたしております。

今話題になっている政経パーティー、自民他党、地方議員なども出席いたし見識を改めております。その実態はマスコミ情報と真実の相違を感じる。長工東京支部には「三無い原則」がありその内容は秘します。「三無い原則」は①特定の政治活動はしない。②特定の宗教活動はしない。③特定の企業を支援しない。時代錯誤の言を愧じる。愚老、十万八千里の弥陀ヶ岳の登頂も間もない。

長工東京支部の発展、母校本部の隆盛を祈る。

A decorative border consisting of a repeating pattern of diamond shapes. Each diamond contains a smaller diamond in its center, which is filled with a black diamond symbol (*). The outer points of the diamonds are filled with asterisks (*).

越後長岡ふるさと会

副支部長 原 勝英(S46M)

我が長工同窓会東京支部と越後長岡ふるさと会との付き合いは、前支部長の樋口昭様に長岡市の越後長岡ふるさと会事務局（地域振興戦略部）より連絡が来たと聞いております。その創立総会、懇親会が開催されたのが、平成27年5月31日上野東天紅で長工同窓会東京支部から21名が参加しました。越後長岡ふるさと会には20団体が参加し当日は来賓を含め300名近くの方が参加され盛大に行われました。中でもミ・アモーレプロジェクトとして「故郷はひとつ」の長岡応援歌を阿木燿子作詞宇崎竜童作曲の曲が披露され、阿木燿子様本人も長岡応援団として出席されました。



越後長岡ふるさと会の年間行事は、総会・懇親会、ふるさと会フェア、長岡探訪ツアーの3本柱で会の運営が行われております。中でも私が楽しみにしていたのが「長岡探訪ツアー」です。平成28年2月13日、14日の第1回から平成29年、平成30年までの3回。令和2年の第4回はコロナウィルス感染の観点から中止になりました。高校時代は現在の長岡地域の8割以上訪ねたことがなく、改めて長岡地域を振り返ることができました。万感の思いにつかりました。ただ残念なことは、第4回の「長岡探訪ツアー」の蓬平温泉、山古志、翌日長岡を巡る内容です。私の田舎の良さを会員に知つていただく良い機会でしたが、残念ながら、コロナにより中止になりました。令和5年にはコロナの感染症が2類から5類になり、久々に「長岡探訪ツアー」第5回の開催の案内が来ましたが、残念なことに事務局より参加者が12名しか集まらず中止の連絡がきました。残念無念。

しかし、総会・懇親会、「越後長岡ふるさと会フェア」の第6回目が開催され、我が長工からも参加いたしました。昨年より「越後長岡ふるさと会」の役員を仰せつかり、今後の活性化に尽力して参りたいと思いますので、是非皆さんのご協力をお願いします。

村松高等学校との交流会の開催

同窓会窓口 事務局長 成田 修(S44M)

3月20日(祝)、対外交流団体である村松高等学校(以下”松高”と記す)東京同窓会の役員と当支部の役員との交流会を新潟県人会館で行いました。この交流会は両同窓会が1年交代で幹事を担当して毎年2月頃に実施しており、今年は松高が幹事で開催する年となっていました。松高は金子相談役、大橋会長以下、男性役員7名、女性役員6名の計13名の参加に対し、当支部は樋口顧問に参加していただき、永井理事長他4名の役員が入り、総勢6名と少な目の参加でした。会は昼食時間帯にも重なっていたため、松高が手配した幕の内弁当を食べた後、ビールや酒が入っての意見交換会で話が盛り上がりました。松高も総会への参加者が少しずつ減少している傾向のようであり、過去に開催していた会場(パレスホテル)から新潟県人会館へ昨年度から会場を変更しており、参加会員の減少という面では当支部と同じ悩みを抱えているようです。当支部においても役員も含めて会員の高齢化に伴い、総会参加会員が減少しつつある現状であり、今後とも松高とは情報交換や相互協力をし合いながら同窓会活動を続けて行きたいと考えております。



「樋口昭様とキルトと私」

若波会会員・新潟県人会会員・キルト作家 鎌滝 津江子

人との出会いは様々で、その時々に感慨深い想いをします。私は佐渡の玄関口両津に生まれ、高校生まで過ごしました。高校生までは“針”を持ったことはなく本を読み耽るような日々でした。

私は四十歳初めの頃から「キルト」を制作し始め、35年が過ぎました。長きに



わたるキルトとの関わりには私自身も驚いております。その道程の中で多くの方々との出会いがありました。キルト出展はアメリカ（ワシントン州・ケンタッキー州）・イギリス（チェルトナム市）・韓国・「赤坂・プリンスホテル」・「椿山荘（個展）」・「三越デパート」・「東京家政大学博物館（個展）」・千葉県（酒々井飯沼本家まがり屋（個展））・新潟県（十日町市・佐渡市・新潟市）など多くの出展の機会に恵まれました。また、大学の講座（20年間）・自宅教室（現在も）でキルトを指導して来ましたので必然的にキルト展での私の作品を観る来場者は女性が多い傾向にありました。

さて、表題のとおり樋口様との出会いの話を進めたいと思います。若波会のS氏の紹介によりまして樋口様、長工高OBの方々とのご縁ができました。このことを切っ掛けに私のキルト展には大変、

“まれ”なことですが男性のご来場者がしかも大勢でしたので、他の出展者からは「鎌滝さんのお客様に違いない」等々、嬉しい評判となりました。その時の情景が今でも思い浮かびます。展示会場にはご用先から汗だくで駆けつけてくださった樋口様への感謝の思いが一杯でした。この頃の私は樋口様が富士山をテーマにした写真を多く撮影していることを「知るよし」もありませんでした。気付きましたら富士山撮影の年月日や時刻が記されたポストカードをいただくようになり、わが家では大切に保存するようになりました。また、霊峰富士を記録的に撮影するなど、そのパワーの源はどこからでしょうか。

このような思いに駆られている時に今回のキルト作品のタイトル「祝米寿樋口昭様」のヒントになった樋口様が写っておられる「三ッ峠開運山」のポストカードが届きました。私のキルト作品は今までオーダー・エディションばかりでした。写真や絵画からの引用、模写する「カテゴリー・エディション」を一度は作品にしたいと思っておりましたので早速樋口様のお許しをいただいて制作に取り組みました。迫力と熱意溢れる樋口様からは制作にあたり「富士山の季節の移り変わる情景や「三ッ峠」の説明を受け、拡大された写真を多数いただきました。



[祝 米寿 桶口 昭様]

こうした支援を得て制作のスピードが加速し、ほぼ2か月で完成いたしました。2023年（令和5年）10月4日『樋口様米寿及び写真集出版記念パーティー』の御席でお嬢様や長工高OBの方々のお手をお借りして披露しお贈りさせていただき、県人会文化委員会による「作品展」にも出展いたしました。

人との出会いはよく「縁は異なるもの味なもの」と言われておりますが、私の「縁」は多くの方々の支援により成り立っていることに厚く感謝している日々です。最後に樋口様をはじめ長工高OBの皆様のますますのご活躍とご健勝を願っております。“感謝”



支部報告

総会・懇親会

総会・懇親会担当統括理事 宮田 隆(S32E)

令和6年の総会・懇親会は7月6日(土)に御徒町のオーラムで開催と予定しております。同窓諸兄多数のご参加をお待ちしております。詳細は同送のご案内をご覧ください。

過去の総会・懇親会や同好会の様子や活動状況は「東京支部同窓会のホームページ」に掲載しておりますので是非ご覧ください。

支部会計報告

会計担当統括理事 今井 広(S46M)

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。会員の皆様には会費と寄付を頂戴しましたこと、心から感謝申し上げます。お陰様で令和5年度は予算を上回ることができました。令和6年度からはコロナ前と変わらぬ活動を予定しております。皆様から頂戴しました会費と寄付金は東京支部活動のために大切に使わせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

令和5年度寄付者一覧(敬称略)

| No. | 会員番号 | 氏名 | 金額 | No. | 会員番号 | 氏名 | 金額 | No. | 会員番号 | 氏名 | 金額 |
|-----|----------|-------|-------|-----|----------|-------|-------|-----|----------|-------|------------|
| 1 | S20M0460 | 松永 巍 | 3,000 | 16 | S34W0170 | 島田與五郎 | 3,000 | 31 | S44M030B | 成田 修 | 1,000 |
| 2 | S25M0370 | 疋田 精俊 | 5,000 | 17 | S34C0340 | 星野 卓史 | 2,000 | 32 | S44M038B | 横山 実 | 10,000 |
| 3 | S28M023A | 土田 進 | 3,000 | 18 | S34M008A | 大淵 平祐 | 1,000 | 33 | S44M038C | 山崎 正二 | 3,000 |
| 4 | S28W0290 | 並木 政治 | 8,000 | 19 | S36E0140 | 川村 吾一 | 3,000 | 34 | S46e0240 | 野崎 敬策 | 8,000 |
| 5 | S29E0360 | 樋口 昭 | 3,000 | 20 | S36E0370 | 星 富夫 | 3,000 | 35 | S46M003D | 今井 広 | 3,000 |
| 6 | S29E0260 | 土田 弘明 | 1,000 | 21 | S36M010A | 河野 末次 | 1,000 | 36 | S46M027A | 原 勝英 | 3,000 |
| 7 | S30M037B | 矢久保篤司 | 8,000 | 22 | S37e0280 | 高橋 大二 | 3,000 | 37 | S46E017B | 佐藤 満 | 1,000 |
| 8 | S30E0300 | 藤田智三郎 | 1,000 | 23 | S37e0150 | 木間 勝 | 3,000 | 38 | S46C0270 | 田村 耕一 | 1,000 |
| 9 | S30E0330 | 星 清善 | 1,000 | 24 | S37M011B | 中村 秀和 | 1,000 | 39 | S46M014D | 児玉 幸一 | 1,000 |
| 10 | S31W0120 | 片桐 謙一 | 1,000 | 25 | S38W0010 | 相澤 功 | 1,000 | 40 | S46M020C | 塩入 晴夫 | 1,000 |
| 11 | S31E0080 | 大関 稔 | 1,000 | 26 | S39M031A | 堀 清市 | 1,000 | 41 | S48e0260 | 速水 均 | 10,000 |
| 12 | S31E0240 | 近藤 宗一 | 1,000 | 27 | S40C0130 | 加藤 智 | 3,000 | 42 | S48E026B | 永見 健治 | 1,000 |
| 13 | S31E0220 | 高坂五郎作 | 1,000 | 28 | S41E014A | 桑原 克己 | 6,000 | 43 | S49M005A | 伊佐 隆夫 | 1,000 |
| 14 | S32E0370 | 宮田 隆 | 3,000 | 29 | S42M025D | 白井 等 | 1,000 | | | | 合計：121,000 |
| 15 | S33E0390 | 山川 昭男 | 3,000 | 30 | S43E044B | 若月 明 | 2,000 | | | | |

令和5年度(2023年)計報 (2024年3月31日現在) 名簿担当統括理事 塩入 晴夫(S46M)

次の方々について、ご逝去の連絡がありました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

| 卒業年 | 修業科 | 会員 No. | お名前 | ご逝去 年月日 | 備考 |
|-------|------|----------|--------|------------------|----|
| 昭和 26 | 機械 | S26M0130 | 黒崎 徳松 | 令和 5 年 4 月 26 日 | |
| 昭和 27 | 機械 | S27M0020 | 池田 謹治 | ご逝去日不明 | |
| 昭和 27 | 染色 | S27W0160 | 斎藤 友蔵 | 令和 5 年 3 月 11 日 | |
| 昭和 30 | 工業化学 | S30C0330 | 星野 弘明 | 令和 5 年 7 月 | |
| 昭和 31 | 機械 | S31M006A | 板屋 穀 | 令和 5 年 1 月 14 日 | |
| 昭和 32 | 機械 | S32M013B | 小泉 幸夫 | 令和 4 年 12 月 14 日 | |
| 昭和 32 | 機械 | S32M027A | 平沢 力 | 令和 5 年 9 月 4 日 | |
| 昭和 32 | 機械 | S32M038B | 山波 豊 | 令和 5 年 10 月 2 日 | |
| 昭和 33 | 染色 | S33W0340 | 長橋 久美夫 | 令和 5 年 5 月 7 日 | |
| 昭和 34 | 電気 | S34E0370 | 福原 学 | 令和 4 年 12 月 25 日 | |
| 昭和 36 | 電気 | S36E0360 | 帆刈 明夫 | 令和 5 年 5 月 | |
| 昭和 36 | 機械 | S36M023B | 柴木 俊雄 | 令和 5 年 5 月 20 日 | |
| 昭和 36 | 染色 | S36W0040 | 稻田 義夫 | 令和元年 12 月 12 日 | |
| 昭和 37 | 電子 | S37e0130 | 小島 洋 | 令和 5 年 12 月 9 日 | |
| 昭和 38 | 電子 | S38e0420 | 宮 隆雄 | 令和 5 年 5 月 8 日 | |
| 昭和 39 | 工業化学 | S39C0300 | 畠野 四郎 | 令和 4 年 12 月 1 日 | |
| 昭和 46 | 電気 | S46E025B | 竹津 弘幸 | 令和 5 年 4 月 25 日 | |

支部運営 ー喫緊の課題ー

事務局長 成田 修(S44M)

令和5年になってコロナが若干落ち着いてきたこともあり、4年ぶりに7月1日(土)に総会を開催することができました。しかし、年々参加会員が減少してきていることもあります、参加者は来賓も含めて70名程度となってしまいました。また、支部運営の面におきましても役員の高齢化に伴い、散発的に退任要望をされる役員が出ている現状です。

現在、4役員(支部長、副支部長、理事長、事務局長)でいろいろと対応を検討中ですが、なかなか良い案が出ておりません。そこで、現役員の更なる支援の強化(積極的な支部業務への参加)と一般会員各位の役員応募を切に期待したいと考えています。

現役員の皆さんには多くの場面でご協力いただいておりますが、更なる活性化に向けてお手伝い

をお願いできないでしょうか。また、同期との懇親の場を持つ機会がありましたら是非ともその機会に役員として力を貸しいただけないかお願いしてみてください。

毎年、総会にご参加いただいている一般会員の皆様も是非とも伝統ある長工東京支部の維持、存続のためとご理解いただき、何卒お力添えをお願いしたいと思います。何かご連絡がございましたら事務局・成田(Tel : 044-766-7636)までお願いいたします。令和6年度も同窓生各位が一堂に集まり、総会、懇親会において同窓の絆を更に強くすることができますことを祈念したいと思います。

支部ホームページの年別更新件数

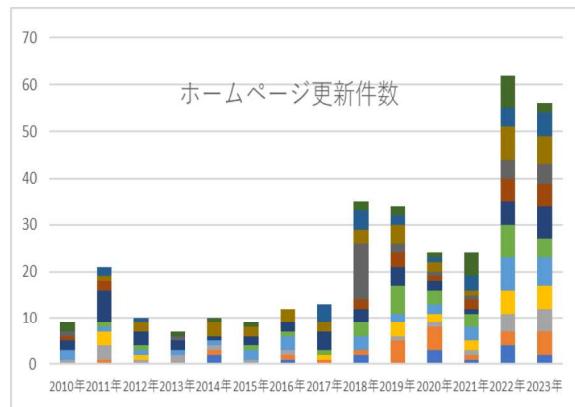
ホームページ担当統括理事 奈良場 慶三(S46E)

ホームページをご覧いただきありがとうございます。右のグラフは2010年からの支部ホームページ更新件数を年別に表したグラフです。

2018年は支部創設40周年の年でイベントや「長工大賞」の投稿などで更新数が35件と増えています。2019年は松永先輩の投稿や各種のイベント開催が通常に行われていました。しかし、2020年になると新型コロナウイルス感染症のため各種イベントが自粛され更新数も24件と減っています。2021年もイベント自粛が続きました。2022年はコロナの影響でイベント自粛が続いているにも関わらず、62件と過去最大の更新件数になっています。これは松永先輩の投稿に加え、新たに野崎さんの投稿《人生の回想》が件数増加に貢献しています。2023年は少し自粛が解除されイベント投稿もありましたが、お二人の連載投稿により56件となりました。会員皆様の投稿をお待ちしています。



| 年 | 更新数 |
|-------|-----|
| 2010年 | 8 |
| 2011年 | 21 |
| 2012年 | 9 |
| 2013年 | 7 |
| 2014年 | 8 |
| 2015年 | 8 |
| 2016年 | 11 |
| 2017年 | 13 |
| 2018年 | 35 |
| 2019年 | 34 |
| 2020年 | 24 |
| 2021年 | 26 |
| 2022年 | 62 |
| 2023年 | 56 |



編集後記

広報・記録担当統括理事 野崎 敬策(S46e)

この度 支部だよりの編集委員長を仰せつかりました野嶋です。

皆様から今まで以上の内容にとのご意見に耳を傾け、新たに表紙をはじめとして会員以外からの投稿をお願いしました。結果、陶芸家や音楽家 さらには刺繡工芸家等、気持ちよく寄稿いただきました。また、多くの方々からも寄稿いただき心より感謝申し上げます。

この支部だよりを心の支えとし長工OBの絆を一層深く感じていただければ幸いです。



7月第一週の東京支部総会・懇親会に皆様とも会いできることを楽しみにしております

編集委員

委員長 野崎 敬策 (S46e) 委員長補佐 川村 五一 (S36F)

秀昌 塚入 晴生 (S46M) 秀昌 永井 利矢 (S44M)

委員 壘人 哀人 (S10M) 委員 余介 利人 (S11M)
委員 余自揚 廉三 (S16E)

委員 今井 泰 (S40M) 委員 宗長易 慶一 (S40L)
委員 加藤 知 (S40C) 委員 連水 均 (S40a)

東京支部ホームページの閲覧は

「長工同窓会東京支部」で検索するか次の URL を入力 <https://choko-tokyo.sakura.ne.jp>

スマートフォンは右の
QRコードから

